

Magnifying glass wall

釧路湿原の遊歩道と、植生やそこに生きている生物の合流地点を覆うように、30M×30Mのガラスの壁を計画した。

ここは、ヨシ、スゲ、ミズゴケ湿原やハンノキ林、曲がりくねった河川や湖沼群など様々な環境を含んでいる。また、タンチョウやイトウ、キタサンショウウオやエゾカオジロトンボといった貴重な野生動物の宝庫である。それらは生きた貴重な教材であるといえる。

この壁は緩やかに厚さを変化させながら立っている。この変化によって、まるで虫眼鏡のように周囲の風景を拡大したり縮小したりする。迫り来る大きなハンノキが小さく見え、広がりを感じたり、ヨシに止まっているエゾカオジロトンボに手が届きそうなくらい大きく見えたりする。まるで自分が拡大縮小されているように感じる。この空間では観察する主体と客体が逆転している。

大きな、偉大な自然の中で観察されているのはむしろ私達人間なのである。

